

12・12京大集会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2016年11月17日
No.423

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

訪韓闘争の感想!

■広大学生自治会委員長・森田寛隆

労働者階級の行動が歴史をつくるのだと、感動をもって実感した訪韓闘争でした!

民衆総決起闘争では、本来機動隊が制圧するはずだった光化門前までもが解放区になりました。参加者は100万人をこえて200万人にも届こうとしていたと聞きます。想像以上に多くの学生、中高生が参加していました。近くに居合わせた学生によると、光化門前が民衆の行動によって解放されたのは60年代以来のことだと。自らが歴史をつくる主体なのだと参加した誰もが体感していました。

掲げられていたスローガンはパククネ退陣に留まらず、財閥も共犯だ! というところまで踏み込んだ内容。革命を訴える内容だと思いました。

各地の現地闘争激励行動では、この大集会の背景にある日々の階級闘争の激しさを学びました。

東洋セメントの闘いはすさまじいものがありました



広大自治会委員長・森田君(右)と
沖大自治会委員長・赤嶺君(左)!

た。資本のやってきたことは正規・非正規労働者間のすさまじい賃金格差、組合結成に対する解雇攻撃、職場集会に対しては業務妨害を主張して50億ウォンもの損害賠償請求。労働者を人間とも思わない悪辣な攻撃がありながらも、絶対非和解で闘う23人が組合に残って闘っている。こうした不屈の労働者の闘いが、階級全体の力関係を形成しているのだと思いました。籠城闘争という闘争形態で、セウォル号遺族も、少女像前で闘う学生も



13日、日本大使館前の慰安婦少女像を訪問!



民主労総ソウル地域本部と理念交流会を開催!(14日)

民主労総と同じように闘っていることはとても象徴的に思えました。いずれも警察権力と対決して実力でその場を占拠し、解放区を作り出していました。

14日の理念交流会は、日韓のみならず米独の労働者からも提起を受け、新自由主義との対決は世界中でひとつの闘いだということが浮き彫りになりました。その後の討論で、どの国においても労働者党が必要だということが出されたのは核心的でした。

訪韓闘争で得た豊かな教訓を、「人間が変わったような」自らの組織者としての変革にまで昇華

させて、広島大学ー全国大学ストライキを巻き起こしていきたいと思います。トゥジェン！

■首都圏学生の11・6集会感想！

11月労働者集会に初めて参加しました。これは私の、労働者の闘いの印象を大きく変える体験でした。

全国から、あらゆる職場から闘いの決意をもった労働者がこの日比谷野音に集まっている！この熱気は、レクリエーション組織のような既成労組に対して抱いていた、結局労働運動には変革の力はないだろうという失望を見事に打ち砕いてくれました。

それであってこの闘う人々は、決して特殊な人間ではないということ、当たり前ではあるけれど、戦闘的な運動に対する偏見も打ち砕かれました。結集された労働者の人と話しましたが、何の変哲もない普通のおっちゃんたちでした。

闘いは“特殊な”人がするものではない。ここに集まっている“普通の人々”は、ただただ働く者という共通項に結ばれて、同じ目標の為に闘っているんだ。そして、私も闘っていいのだということ、当たり前のようですが、しかしそのように意識させてくれたのはこの集会でした。

この転換を銘記して、なおさら共に闘っていくんだという決意を新たにしたい次第です。



ハンギョレ新聞社を訪問！（15日）



南山公園にてゼネスト中の鉄道労組と記念撮影！（15日）

改憲阻止！ 民主労総ゼネスト連帯！ 京大反戦ストへの無期停学処分撤回！

12・12京大大集会&京都市内デモ

京大キャンパス集会

12月12日（月） 11:50 京大時計台前集合

京都市集会&デモ

12月12日（月） 18:30 三条大橋下集合

<呼びかけ>京大同学会中執

